

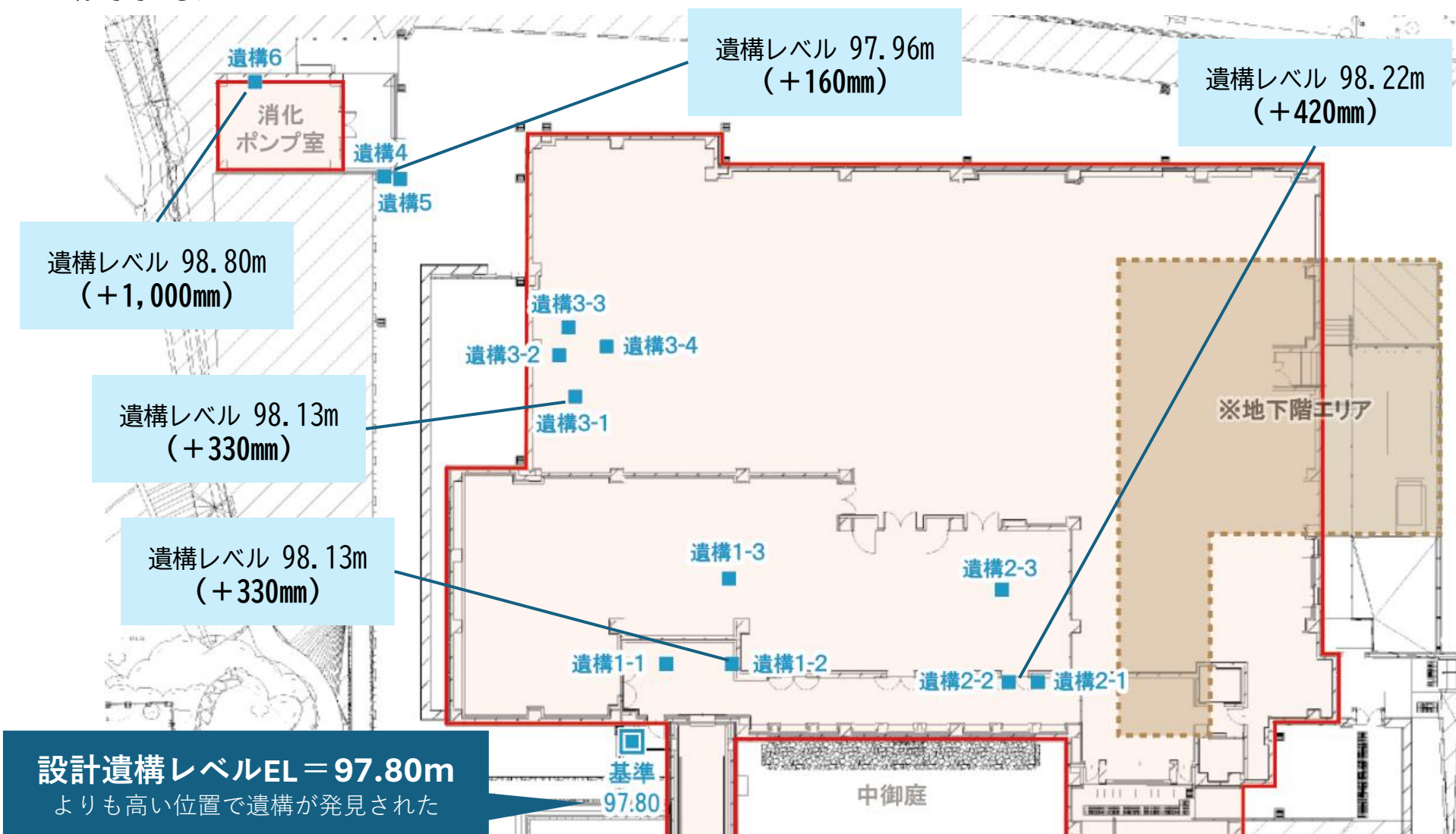
令和 7 年度 第 1 回 中城御殿跡地整備検討委員会

中城御殿の地盤高さ変更による 建物計画の変更について

1. 新たな遺構発見による計画変更について
2. 御内原エリアの変更について
3. 表御殿西側エリアの変更について
4. 消火ポンプ室の形状・高さの変更について

1. 新たな遺構発見による計画変更について

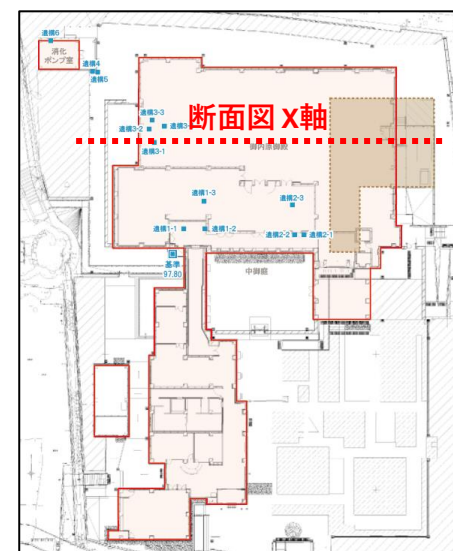
- 令和7年2月より、御内原エリアの地下・基礎工事に着手している。掘削作業を開始したところ、エリア内未調査箇所にて想定（設計遺構レベルE L = 97.80m）よりも高い位置で遺構が発見された。
- 新たな遺構発見により、地盤および建物高さの変更、消火ポンプ室の形状・高さの変更、埋設配管ルートの変更等に影響がでている。



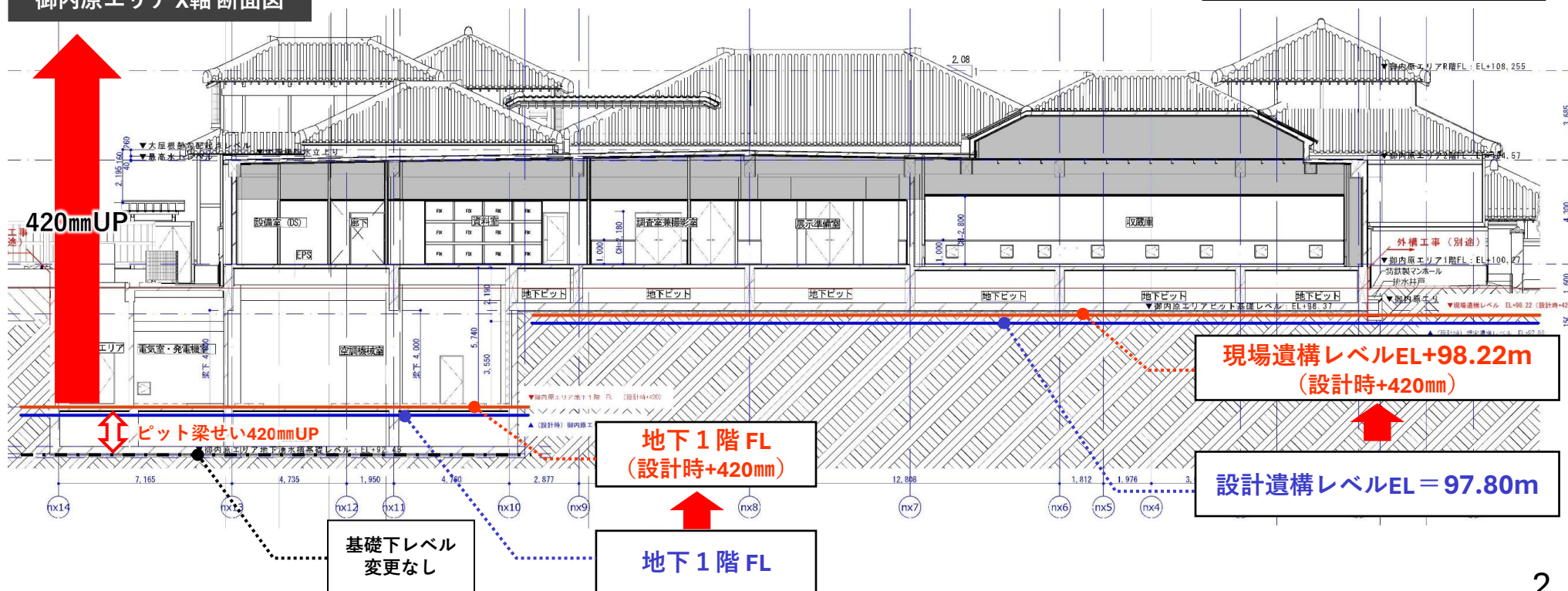
2. 御内原エリアの変更について

- 建物に被る位置に出現した遺構の内、最も高い位置（遺構2-1：EL＝98.22m）の遺構保護のため、御内原エリアの建物については下記の変更を行っている。

御内原エリア 1階	✓ 基礎下レベルを420mm上げる（階高は変更なし）
御内原エリア 地下1階	✓ 基礎下レベルは当初設計通り ✓ ピットの梁せいを420mm上げる⇒地下のフロアレベルが420mm上がることになる（階高は変更なし）



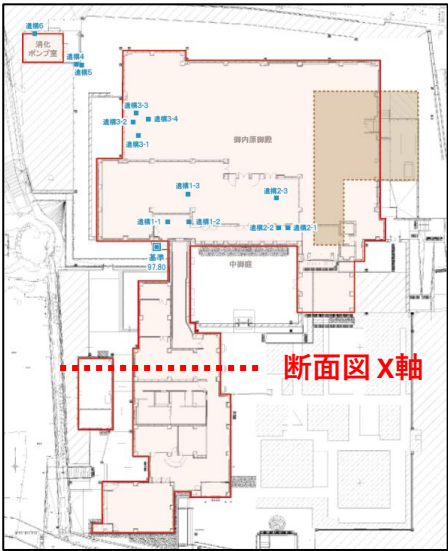
御内原エリア X軸 断面図



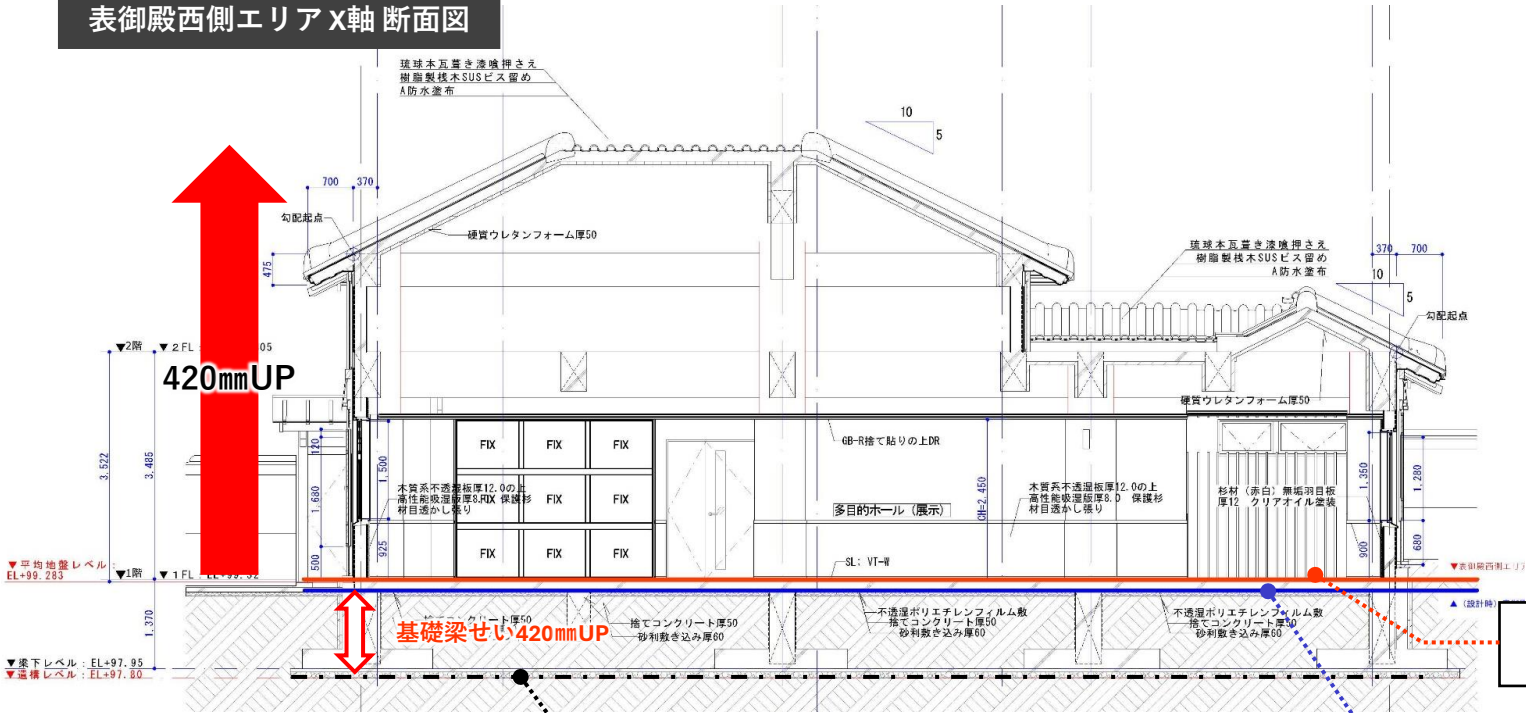
3. 表御殿西側エリアの変更について

- 建物に被る位置に出現した遺構の内、最も高い位置（遺構2-1：EL=98.22m）の遺構保護のため、表御殿西側エリアの建物については下記の変更を行っている。

表御殿西側エリア 1階	✓ 基礎下レベルは当初設計通り ✓ 基礎梁の梁せいを420mm上げる⇒1階のフロアレベルが420mm上がることになる（階高は変更なし）
----------------	---



表御殿西側エリア X軸 断面図



表御殿西側エリア1階FL
(設計時+420mm)

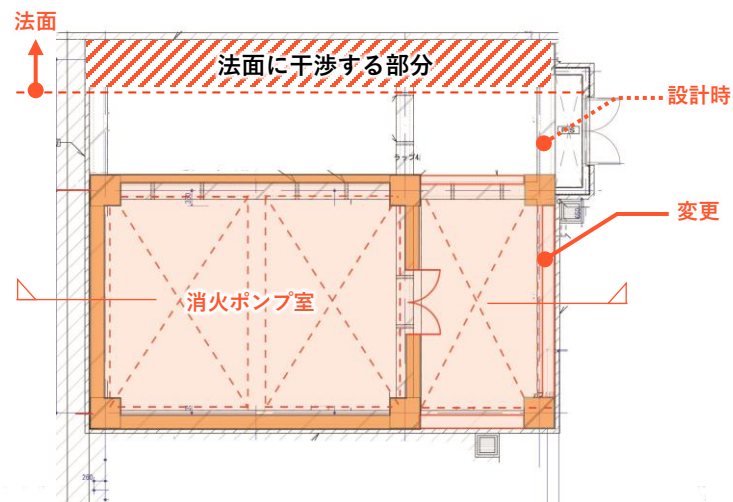
設計時 表御殿西側エリア1階FL

基礎下レベル
変更なし

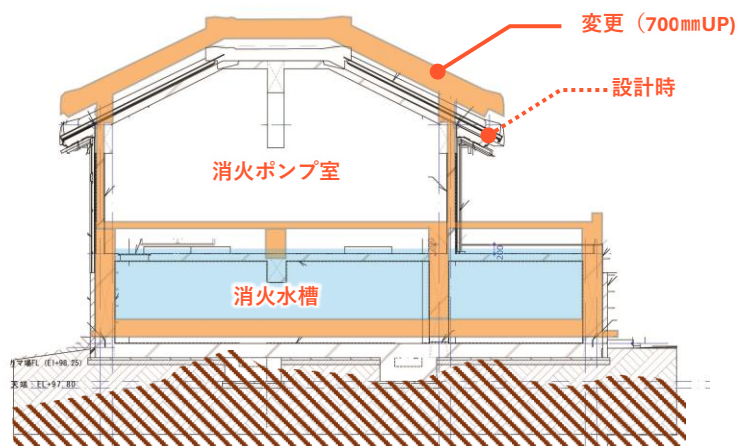
4. 消火ポンプ室の形状・高さの変更について

- 消火ポンプ室付近では、遺構が当初設計時の想定レベルよりも+1,000mm高い位置で出現したため（遺構6：EL=98.80m）建物高さを当初設計より700mm高く設計変更した。
- 建屋の基礎上昇により、北側法面に干渉する部分が生じたため、消火水槽の平面形状を変更した。

設計変更イメージ



▲平面図



▲断面図（遺構イメージ）

イメージパース

